

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	プロダクトデザイン実習 3 B	
科目基礎情報					
開設学科	プロダクトデザイン科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	2単位	開講時間	月曜5時限～	授業形態	実習
教科書/教材	参考作品・参考資料等は、授業中に配布、掲示する。				
担当教員情報					
担当教員	加賀 武見		実務経験の有無・職種	有・デザイナー	
学習目的					
この科目を受講する学生は、プロダクト製品の提案します。使いやすさからユーザーの要求項目を設定し,アイデアスケッチから、コンセプトの立案、図面作成、提案モデルの作成、プレゼンと展開ます。これから経験していく仕事の現場で、役に立つの知識、技術を学び、ユーザー、使用シーンを設定し、要求項目に添った提案を行います。デザインをする際に必要な能力を積極的に学び、実践することができるようになるのがねらいである。					
到達目標					
この科目では、基礎的なプロダクトデザインとして、必要となる知識を理解し、工業製品の特性の考慮して、提案の中に展開します。使いやすさと機能性を評価しながら、改善点を探し、アイデアスケッチを作成し、提案モデルを使いプレゼンテーションをします。製品を実際に使用し、検証を重ねながら問題点を探し、デザインの現場で活躍するために必要な調査や知識を向上させること、段階的に デザインの適正を考慮して、ユーザーと要求項目設定し、モデルとプレゼンテーションボードで発表できるようになることを目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、出題される課題のテーマに沿って、講師からの解説を受けます、製品の特性、使い方から、ユーザーの要求項目、使用シーンに沿った適正なデザインを提案する実習授業です。講師のデモンストレーションから学びを深め、学生の「製品デザインの提案力」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「デザイン提案」を自分自身の実践し、プレゼンテーションできるようになることを目指す。				
注意点	この授業では、学生に、実際に工業デザインの企画提案をしてもらう機会になります。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。今後、現場で求められる専門的な知識と技術の修得を考えた前段階の実習になります。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者はこの科目合格することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	プレゼン	20%	制作物の発表方法、内容について評価する		
	課題完成度	40%	提出課題完成度を総合的に評価する		
	リサーチ	20%	制作準備と過程を評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	前提講義 改善点1		ドアハンドルの事例		
2回	ドアハンドル①		誰への設定 ユーザーの要求事項の整理		
3回	ドアハンドル②		マーカースケッチ、ハイライトスケッチ		
4回	ドアハンドル③		ドアハンドル、三面図の作成		
5回	ドアハンドル④		スチレンボード検証モデル製作		
6回	ドアハンドル⑤		モデルジェッソ モックアップ製作		
7回	前提講義 改善点1		ハンドクリーナーの事例		
8回	ハンドクリーナー①		誰への設定 ユーザーの要求事項の整理		
9回	ハンドクリーナー②		マーカースケッチ、ハイライトスケッチ		
10回	ハンドクリーナー③		ドアハンドル、三面図の作成		
11回	ハンドクリーナー④		スチレンボード検証モデル製作		
12回	ハンドクリーナー⑤		モデルジェッソ モックアップ製作		
13回	ハンドクリーナー⑥		モデルの撮影		
14回	ハンドクリーナー⑦		プレゼンボード制作ドアハンドルハンドクリーナー		
15回	プレゼンテーション		講評会。全体のまとめ		